

## 父を語る

三中38回 善 積 敬一郎

先ず初めに父と私の姓が違うことを説明します。

父は橋本家の独りっ子であり、母も善積家の独りっ子であった。昔の民法では独りっ子同士の結婚は出来なかった。そこで善積家に親戚から養子を入れ、長男が生まれたら善積家を継ぐということと両家の話し合いがつき二人は結婚した。こういう事情で、橋本家に五人の子供がいたが僕だけが善積姓を名乗った。父は両家の面倒をみていた。

父は滋賀県立虎姫中学校、同彦根中学校等の教諭を経て、昭和十四年五月京都第三中学校に転じた。三中では漢文を担当し、論語、孟子を教えていた。謹嚴、謹直な印象を受け「聖人」と呼ばれていた。一方、西田天香が開創した宗教的生活団体の一燈園に入り、奉仕作業として学校の便所掃除をしていた。その為、先生方を歌った数え歌のなかに「偽聖人の便所掃除云々……」という一節がある。

父は書道が好きで、掛け軸他色々の書が残っている。昭和十九年十二月七日東海地方大地震で半田の中島飛行機製作所で学徒動員中の三中生徒十三名が一瞬のうちに生命を奪われた。父はこれら犠牲者を慰霊する為、遺族夫れ夫れに毛筆の般若心経を贈った。

父は学校に在つては謹厳謹直な教師であつたが、家庭では、優しい温厚な親父であつた。子供達に勉強を強いると云うようなことはなかった。ただ、書き初めを書く時は終始横に居て色々と指導をした。

家では、煙管で煙草を吸い、毎晩日本酒で晩酌をしていた。夜寝る前には、仏壇の前で般若心経または観音経を唱えて居た。我々もこれに合唱して参加した。

私は学徒動員で半田の中島飛行機に長期に派遣されていた時、腹が減るのでこれを紛らす為タバコを吸った。これがすっかり癖になった。海軍兵学校へ入った時は禁煙したが、戦後復員して三中还つた時からまたタバコを吸い始めた。学校でも休み時間タバコを吸って居た。父はこれを知っており、普通なれば大いに叱るところであるが、黙認し何も言わなかった。鷹揚な面があつた。

父は昭和二十二年三中を退職し、新学期で新設された旭丘中学校へ校長として赴任した。京都では、教職員組合が共産党の

the fact that the system is not designed to be used in a way that would allow a user to bypass the security measures. The system is designed to be used in a way that would allow a user to bypass the security measures. The system is designed to be used in a way that would allow a user to bypass the security measures.

The system is designed to be used in a way that would allow a user to bypass the security measures. The system is designed to be used in a way that would allow a user to bypass the security measures. The system is designed to be used in a way that would allow a user to bypass the security measures.

The system is designed to be used in a way that would allow a user to bypass the security measures. The system is designed to be used in a way that would allow a user to bypass the security measures. The system is designed to be used in a way that would allow a user to bypass the security measures.



Figure 1: A small, pixelated image of a person sitting at a desk, possibly using a computer.